

## 2021年の活動再開を機に 戦える、勝てるチームへ

安藤さんが主将に就任する以前は、練習メニューを当日に決めていたそう。しかし就任後は、練習日前に各部員のレベルに合わせた練習メニューを作成し、全員で練習の意図を共有したのちにトレーニングに臨んでいます。「楽しく泳ごうというだけでなく、戦って勝てるチームになろうと、僕の代から活動方針を変えました」(安藤さん)。こうした姿勢が実を結び、安藤さんが主将に就任して以降の3年間で、本学水泳部の歴代記録をすべて更新! 「個人種目からリレー種目まで、すべての歴代記録を塗り替えました。先日、納会でOBの方に『以前とは熱量が違う』と褒められました」と、現主将の小峯さんは胸を張ります。2023年の成績は、一番の目標である関東学生選手権水泳競技大会で、尾崎里久さん(理工学部 応用化学科2年)が200m個人メドレーで8位。団体では男子400mリレーで10位、男子



一番の目標は8月に行われる関東学生選手権水泳競技大会。2023年は個人種目、団体リレーで共に好成績を残した。

400mメドレーリレーで14位と健闘。6大学対抗の泳光戦では男子総合優勝を果たし、尾崎里久さんが優秀選手に選出されました。「最近では、水泳部の注目度が高まっている気がする」と、部員たちも飛躍するチームに手応えを感じているようです。



2023年9月、横浜国際プールで行われた、法政二水や慶応銀泳会など6大学による泳光戦では見事に男子総合優勝! 6名の女子マネージャーのサポートも、選手の活躍を支えた。



声出しが解禁されて応援可能に! 競技者も声援に勇気づけられます!

## さまざまなレベルのメンバーが団結力を高めていく

水泳部には好成績を残す経験者から、初心者まで、さまざまなレベルのメンバーが所属しています。こうしたメンバー構成も、チームとしての団結力を高めている要因だそうです。「僕たちには監督やコーチがおらず、経験のある部員が初心者に指導しています。こうしたいろいろなレベルの部員同士の交流

も、いい刺激になっています。例えば25mを泳げない部員が、全国大会経験者に指導を受けて泳げるようになり、互いに喜び合っている。逆に経験者にとっても、基本的な指導で、改めていい気づきがあったりする。どちらにとっても貴重な経験になっているんです」(安藤さん)。また同じレベルごとにグループで練習すると、自然とお互いに負けたくないという競争心が生まれ、結果的にチーム力の底上げにつながっているんだとか。「僕は同学年の1年のエース、寺島さんに勝つことが目標。活動がない日でも、水泳部の仲間と集まるくらい仲良しです」(藤塚さん)。こうして水泳部は堅固な絆のもと、戦えるチームへと成長していきます!



関東学生選手権水泳競技大会後の集合写真。東京五輪2020の水泳競技が行われた、東京アクアティクスセンターにて。